

水戸葵

少林寺拳法

れい

2026年

礼

NO. 145

1月 6日【火】

一金剛禪総本山少林寺門信徒としての矜持を心にー

新年明けましておめでとうございます。拳士並びにご家族の皆様方がつつがなく新しい年を迎えられたことお慶び申し上げます。

2025年<12/31>から2026年<1/1>に、一日の違いでも日付が変わり、世の中の雰囲気も、人々の心持ちも一変する。不思議です。私たちは、時間を区切って、明日への希望を見いだすことを良しとすることを好むようです。

昨年(2025)の12/28の有馬記念の優勝馬「ミュージアムマイル(騎手C. デムーロ)の疾走を視聴し、馬が走り抜く、力強いことを目にしました。その午(馬)の干支(えと)が今年です。「跳ねる、駆ける、達成する」といったイメージ、よい意味で使われることが多い干支の年です。時間の区切り、新しい年を迎え、今までの修練で、自分を高めたい(自分を良くしたい、自分の可能性を広げたいなど)と願い少林寺拳法との縁を持ち継続してきたと思います。修行は、常に「初心忘れべからず」と言われます。節目にあたり、入門時の気持ち(初心)の自己を振り返り、新たな気持ちで目標をしっかりと見定めて力強く、走りぬいていこうではありませんか。

私たちは「ダーマ」の分霊を持つ分身として存在し、無数の「縁」によって育てられ、生かされている。だから自己を改造し、よりどころとできる自己を確立するための修行が可能なわけです。

私たち門信徒は、釈尊の教え(「ダーマの働き→縁起の法則」)をもって平和で豊かな理想社会の実現に向けて努力することが信仰の基本です。改めて金剛禪門信徒としての矜持(自分の能力や価値を信じ、それに対する誇りや自尊心を持つこと)を心に走り抜く年であってほしい。

大澤隆管長は、『自分に負けない一年に』「縁起Vol.130」の中で次のように述べています。『新しい一年は、決意を定めるのに最もよい節目です。目的が曖昧なままだと、気づけば流され、たださまようことにもなりかねません。だからこそ「これだけは誰にも負けない」というものを持ちましょう。小さくても構いません。自分の中に芯を立ててください。そして何より大切なのは、「自分に負けない」ことです。世の中には「まあいいか」があふれています。しかし自分だけは、自分に対して投げやりにならない。釈尊の教えにあるように、偏りを避け、中道を歩むことは、日々の在り方を整える確かな指針になります。諦めない心を養い、継続し、やり抜く力を毎日の積み重ねの中で育てていきましょう。継続はやがて自信として身心に根を下ろします。少林寺拳法には、技法の修練だけでなく、教えがあります。徳を積み重ねながら、身心を変えていくために修行があります。動禅と言われるように、動きの中でダーマを感じ、学びと実践を一致させていく修行の在り方は、私たちの大きな特長です。どうか自信を持って、この一年も修行に取り組んでいただきたいと思います。』

ー日々、和敬静寂(わけいせいじゃく)で!!ー

{和らいだ気持ちで相手を敬い、慎み深く落ち着いた気持ちを持とう。}